

# 全国協議会 ニュース

2025年5月1日発行 第393号

発行所：特定非営利活動法人  
全国骨髄バンク推進連絡協議会  
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4KT ビル3階  
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365  
発行責任者：梅田正造 題字：仲田順和  
https://www.marrow.or.jp E-Mail:office@marrow.or.jp

## 福島県 JA 団体が次々と「ドナー休暇」を導入



福島県農協5連管野会長(中央)、関根会長(左から二番目)

“困った人がいたら助ける…” 私たちには先人から受け継いだ「結いの精神」を次世代に繋がなければならない責務があります。

福島県骨髄バンク推進連絡協議会は昨年度の事業計画に、県内59市町村の「骨髄ドナー助成金制度推進」さらに「企業団体のドナー休暇導入推進」を目標に掲げ、全県の行政機関や団体に要望書を提出してまいりました。運営委員

であるJA東西しらかわ菊池教夫組合長が県JA団体に先駆けて昨年4月に県内で2企業目となる「ドナー休暇」を導入してくださいました。さらに福島県農協5連管野啓二会長に骨髄バンクの必要性をお伝えし、県内農協組合長及び各団体代表者会議にて趣旨を説明。要望書を受理した管野会長は「要望書を受理した以上実行しなければ意味がない」との強い社会貢献への意志を示してくださいました。この言葉に大きな組織を牽引するリーダーとしての即決力には深く感銘したところです。

後に「JA全農福島」「農林中央金庫福島支店」さらに「JA福島中央会」「JA福島厚生連」「JA福島共済連」そして「JA夢みなみ」の各農協団体が次々と

導入を決定してくださったのです。昨今の社会情勢悪化に伴い、組織の効率化が求められている中で、特別休暇を導入した各JA関係団体の社会貢献への決断には胸が熱くなりました。この導入は全国のJA関係団体や企業にとっても「社会貢献事業」のひとつとして大きな波紋が広がるものと大いに期待しているところです。

骨髄提供したくても社会的環境が整わなければ提供に至りません。「青少年層のドナー拡大」、「自治体のドナー支援金制度100%確立」そして「ドナー休暇の導入拡大」は「命のバトンリレー」を次世代に繋ぐための大きな三本の矢であります。

骨髄バンクの担い手育成にも力を注ぎながら、あらゆるネットワークと行動力をもって「支えあう社会づくり」の実現を目指したいものです。

(福島県骨髄バンク推進連絡協議会 会長 関根政雄)

## 全国骨髄バンク推進連絡協議会 35周年記念大会 開催にあたって —第3弾—

既に皆様にお知らせしておりますが、「設立35周年2025全国骨髄バンクボランティアの集い in 名古屋」が5月24日(土)に開催されます。地方での開催は2019年の山形開催以来となります。全国協議会設立35周年という節目の年に名古屋で開催出来ること、感慨深い思いでいます。第一部は式典、第二部は「愛知こどもホスピスプロジェクト」「仕事と治療の両立支援ネットブリッジ」「行政」の皆様にご登壇いただき活動などご紹介いただきます。他団体との交流を積極的に行い、患者・患児や患者家族を取り巻く環境を把握しご支援につなげる。今後のボランティア活動のあり方を全国の皆様と一緒に考える機会になればと思っています。そして第三部は、名

古屋で骨髄バンク普及のために長きにわたりご協力いただいている滋慶学園グループ「名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校」の皆様にご出演いただきます。学生さんたちが演じる骨髄移植推進キャンペーンミュージカル「明日への扉」、「Hospital Of Miracle」は「人の優しさと命の大切さ」を伝えます。学校の取り組み、学生さんの取り組みなどをご紹介、素敵な歌声もご披露いただきます。お楽しみに！

有意義な時間を過ごせるよう当日に

### 設立35周年2025全国骨髄バンク ボランティアの集い in 名古屋

日時：2025年5月24日(土)  
12:30~16:30(12:00開場)  
会場：名古屋市立大学医学部桜山キャンパス  
病棟・中央診療棟3階ホール  
(名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1)

向けて準備しております。多くの方にご来場いただければと思います。どうぞ皆様お気をつけてお越しくださいませ。

(主管団体 認定NPO あいち骨髄バンクを支援する会 水谷久美)

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

### 骨髄バンク NOW

(MONTHLY JMDFP(4月15日発行)より抜粋)

#### ■日本骨髄バンクの現状(2025年3月末現在)

	2月	3月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,187	2,163	562,452	994,918
患者登録者数	166	222	1,723	70,949
採取数	骨髄	60	58	26,983
	末梢血幹細胞	30	36	2,424
	合計	90	94	29,407

2023年4月から統計基準が移植件数から採取件数に変更

#### ■3月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム/588人、献血併行型集団登録会/1,538人、集団登録会/0人、その他/37人

#### ■3月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 4,280人/20代 97,812人/30代 137,532人  
40代 210,138人/50代 112,690人

#### ■3月の20歳未満の登録者200人

(注)数値は速報値のため訂正する場合があります。

## クラウドファンディングへのご支援に感謝

今年1月20日から3月31日まで募集していた「白血病に向き合う患者さんへの基金設立から30年。支援活動の発展へ！」のクラウドファンディングは300万円の目標を達成し、最終的に総額3,301,000円ものご寄付が集まりました。今後も移植患者さんに対する支援を当面継続することができます。ありがとうございました。

1995年の設立から今年で30周年を迎えた佐藤さち子基金は、延べ380人

以上の移植患者さんに対して経済的支援を行い、2025年1月には累計助成金額が1億円を突破しました。しかし基金は無尽蔵にあるわけではありません。今後を見据え、少しでも長く、多くの患者さんを支援するためのクラウドファンディングでした。

一ボランティア団体が運営する基金が30年間も患者さんを支え続けてこられたのは、白血病など血液疾患で移植を必要とする患者さんを助けたいと

思う多くの方々のご協力のおかげです。加盟団体はじめ学会関係者などの医療従事者や、ライオンズクラブなどの関係団体に情報拡散をお願いしました。また全国協議会の青年部長である二階堂瑠美さんのSNSでの呼び掛けや山本雅也さんからのアナウンスなども奏功して無事達成できました。

お金がないから治療をためらうことなどあってはなりません。引き続きご協力をお願いいたします。

(全国協議会副理事長 若木換)

## ブロックセミナー報告

### 近畿地区



3月23日(日)に大阪府赤十字血液センターにて「近畿地区ブロックセミナー」を実施し、滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良から30数人の骨髄バンク

活動に携わる方々が参加しました。

はじめに山村詔一郎副理事長より全国協議会の患者支援などの取り組みをお伝えしました。基調講演として日本骨髄バンク広報渉外部の水口詞代氏より骨髄バンクの現状と今後導入していくスワプでのドナー登録方法や若年層にフォーカスしたプロジェクトなどのお話をいただきました。ライオンズクラブ国際協会335-B地区前地区ガバナーの西尾良典氏は血液疾患の発病から克服されるまでのご経験と、ライオンズクラブで広がる骨髄バンク活動を継続していくとお話してくださいました。パネルディスカッションでは大阪

から府県を超えて活躍中の大学生の3人が登場しました。大学在学中に移植を受けた田中美羽さん、大学在学中に骨髄提供された細川渚さん、大阪府学生献血推進協議会副会長の廣田知さんがそれぞれの体験や大学への公欠制度導入の働きかけなど若さいっぱいに披露されました。グループディスカッションでは全員が参加し、自由に意見を書き出し話し合いました。「最後に意見を全員で共有する時間がなく残念だった」「普段関わることのない方々と情報交換ができ参加してよかった」というお声をいただき、準備と運営に関わった立場として課題を次回に活かそうと思います。

(近畿地区担当理事 浅野祐子)

### 関東甲信越地区



3月30日(日)東京西新宿のこくみん共済coop東京会館にて、関東甲信越地区のブロックセミナーを開催いたしました。年度末の慌ただしい時期でしたが、各ボランティア団体より26人の参加がありました。

今回は特別講演として、骨髄提供最終同意に立ち会われている骨髄等提供同意立会特別委員会元委員長の村上康聡弁護士、及び移植を受けられた元患者である仲井間滋之弁護士にお越しい

ただきました。

村上弁護士からは弁護士立会制度について、公正な第三者として弁護士が立ち会う目的や意義について、具体的な現場でのやりとりを含め、お話をいただきました。仲井間弁護士からはご自分の闘病を含めた骨髄移植治療の概要、闘病後に弁護士を志した経緯などを含め、最終同意立会についてのお話をいただきました。法的有識者である弁護士が立会人であることは、患者及びドナーの安全と安心を担保するために数多くのメリットがあることを感じました。

後半は各ボランティア団体より、活発な活動報告がなされました。更に、大谷副会長の呼びかけで日本青年会議所より3人の有志をお招きし、活動報告等をしていただきました。

終了後は近隣にて懇親会を実施。お招きした弁護士を含め19名の参加があり、セミナーとは別の意味での有益な情報交換、懇親がなされました。

(関東甲信越ブロック担当理事 館野守男)

### マンスリーサポーターとしてご支援を

マンスリーサポーターは月々1,000円からのクレジット決済で行う支援で、大きな負担感なく継続的な患者さん支援にご協力いただけます。税制上の優遇も受けることができます。お寄せいただいたご支援は患者支援基金をはじめ、さまざまな患者支援活動、啓発活動に使わせていただきます。ご協力のほどよろしくお願いいたします。



READYFOR 継続寄付ページ

## AYAweek2025ブース出展



3月8日(土)から3月16日(日)まで「AYA世代の“がん”について想う1週間」と題し、AYA week2025(主催: AYA week2025実行委員会)が開催されました。

3月16日(日)には大交流会として、東京・大阪・福岡の3会場で、対面とオンラインで意見や情報交換を行うイベントが催されました。全国協議会は東京会場の「がん研有明病院」でブー

スを出展しました。

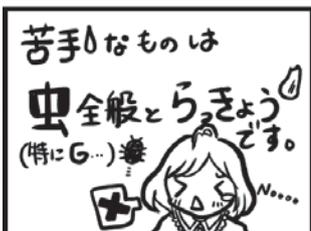
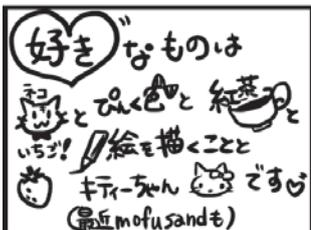
AYA世代(15~39歳)について考えることがテーマですが、参加者は年齢・立場もさまざまでした。ブースでは主に患者支援基金やハンドブックの広報をし、スタッフとして参加されていた薬剤師の方からは、分子標的薬を処方している患者さんに「志村大輔基金」を紹介したい、ということで具体的なお案内もすることができました。現在も通院中の患者さんからは「ハンドブックをダウンロードして読みました」と声をかけていただきました。

印象に残ったのは、ブースに置いてあるハンドブックを熱心に読んでいる方でした。話を聞くと、同い年の友達が急性リンパ性白血病になり、4度の移植を受けた後、つい先月27歳で亡

くなった、ということでした。友達の病気について知らないといけないとの思いでハンドブックを読んでいらっしゃいました。

小児や大人に比べて、AYA世代の方へがんサポートはまだまだ整っていない現状があると言われてます。基金の申請を受けていても、10代までは医療費控除があったけれど、20歳になった途端に高額療養費上限額までの支払いをし続けなければならなくなった、という話もよく聞きます。学校に行きたいけど通えない、職に就きたいのに働けない、という切実な悩みを抱えている若い世代の方も少なくありません。まずは、AYA世代の治療について知り、発信するだけでも、誰もができるサポートのひとつになると思います。

## 今月号から隔月で連載が始まりました



白血病を発病し、お姉さんから骨髄移植を受けて元気になられた葉月さん。Facebook・メルマガ・YouTube も是非ご覧ください。

白血病サバイバーの葉月です。私は30歳の時に急性骨髄性白血病と診断されました。告知されたその日に入院し、抗がん剤4クールを経て、姉がドナーの造血幹細胞移植をしましたが、2年後に再発。さい帯血移植をして、現在経過観察中。好きなことを仕事にしようとして現在は似絵師、お絵かきクリエイター®として活動しています。私の経験を活かして、白血病や骨髄バンクの啓発活動に携わりたいと考え、今年骨髄バンクドナー登録説明員の講習を受けました。私の活動が、誰かにとって少しでも励みになれば嬉しいです。

## 中野中学社会貢献学習



毎年1回、東京都中野区立中野中学校2年生の皆さんが「社会貢献活動の調査」のために、

全国協議会を訪れ、事務局職員の話聞いてくれます。今年は3月7日(金)に、午前と午後の2組、10人がいらっしゃいました。午後にははたまた事務所に来ていた梅田正造理事長も同席しました。この学習の目的は①社会貢献活動・ボランティ

アの意味を知り、②自分に何が出来るのかを考える契機とすることです。さまざまな社会貢献活動がある中で、血液難病の患者さんを支援する活動に焦点を当ててくれることに感謝し、皆さんの目的・期待に応えることができるように説明しました。

そして、最後にあやちゃんの画集を見てもらいました。移植を待っていたけれど、かなわぬまま旅立ってしまった7歳9か月の女の子がどんな思いでいたかを若い感性で想像してもらい、「社会貢献とは何か?」を自分なりに考えてもらうためです。皆さんの表情を見る限り、事務局職員の話よりも、あやちゃんの絵の方が大切なことを伝えたようでした。

——— 生徒さんの感想文より ———

先日はお忙しい中、私達の社会貢献活動調査にご協力いただき、ありがとうございました。

ご説明いただいた中で、ドナー登録者を増やすことの大変さや、活動を多くの人に周知する大事さについて学ぶことができました。

私自身も今回の調査で学んだことを家族や友達に話すことで、この活動の理解者を一人でも多くつくることに貢献できればいいなと思います。

改めてありがとうございました。

# 各地のたより

各地のたよりを  
写真を添えて  
お寄せください。

島根

## 島根県立大学献血サークル 「あかえんぴつくん」の活動

献血サークル「あかえんぴつくん」は、血液を象徴する「赤」と、誰かが歩いた道を進むのではなく、地図にない新しい道を赤鉛筆で書き込みながら進む「探求心」が由来です。2002年の設立以来、献血と骨髄バンクの普及啓発活動に取り組んでいます。メン



バー62人のうちの多くが説明員の資格を取得しています。

特筆すべき活動は、元患者さんとの交流、出雲中央ライオンズクラブや少年野球チーム出雲神在エンジェルスとの連携活動です。元患者さんの話から治療の心理的負担を知り、学生が自らの価値観や看護観を考える有意義な機

会になっています。また、小学生への普及啓発は、家族を巻き込み、社会全体の理解促進と協力の輪が一層広がるきっかけになっています。

私たちは、移植を待つ全ての患者さんの命と未来がつながるよう、さらに活動の幅を広げていきたいと考えています。メンバー一人ひとりが、患者さんの気持ちを理解し、ドナー登録の必要性を正しく伝え、益々楽しく活動に参加できるサークル作りに励みたいと思っています。

(島根県立大学 献血サークル「あかえんぴつくん」 顧問 渡邊克俊)

広島

## 広島国際大学骨髄バンク ドナー登録を推進する会 「しずく」の活動

2011年3月、東日本大震災により東北地方は未曾有の大災害を受けました。しかし、その後の復興作業で世界中から無償で集まったボランティアの人々の姿を目の当たりにした学生たちが、自らも人のために何かを始めたいという思いがきっかけで、「しずく」が発足しました。本会は同じ市内で活動するボランティア団体「つばさの会」

の指導の下、広島市内の血液センターや商業施設等での献血併行型登録会で骨髄ドナー登録の説明員として活動するとともに、若年層ドナー対策として学生を対象にした大学キャンパス内でのドナー登録会の企画・運営を行っています。また、これまでにつばさの会と協力して東広島市の「ドナー登録助成制度」および本大学の「ドナー公欠制度」の設置に貢献しました。しずくの活動はドナー登録の啓発にとどまらず将来医療に関わる本学の学生の社会人教育として大きな成長につながって



います。今後さらに活動の幅を広げ、学生たちのボランティア精神を育みつつ継続的に社会貢献に努めていきます。

(広島国際大学「しずく」 顧問 富永孝宏)

大阪

## ゴリラホール!? で 「THE BANK2025」



今年で4回目を数える THE BANK が、3月22日(土)に開催されSNOWBANKを応援してくれているサンゴマスター、locofrank、TOTALFAT、DJ ダイノジ、DAZEBAND 等が出演!

事前の告知の結果もあり、たくさんのファンの方が骨髄バンクの重要性をきちんと理解して、骨髄ドナーへの一歩を踏み出してくれました。ドナー登録するともらえる魅力的なグッズがあったことも決心の後押しをしてくれ

たとは思いますが、それ以上に、骨髄ドナーの重要性自体への理解が来てくれた人たちの登録に繋がっていたように説明しながら感じました。

会場で献血74人、骨髄バンクドナー登録33人の方々に協力いただきました。献血バス1台での結果としては過

去最高らしいです。献血の受付で骨髄バンクドナー登録の声掛けと案内、問診と採血も非常にスムーズに進めていただいた結果(さすがプロ集団)、説明員2人で頑張ることができました!!

(関西骨髄バンク推進協会 井上清孝)

### 心からのご寄付に感謝申し上げます ●3月21日～4月20日(敬称略)

当協議会への寄付金は税制上の優遇措置を受けられます。

●一般	●こうのとりのみ基金	TRAILAR BURGER 99
辻内 義和 現金 50,000円	東京港南マリンロータリークラブ	現金 7,046円
タカギ カズノリ 切手 5,000円	現金 100,000円	株式会社カンセキ若草店
匿名 現金 1,000円	●募金箱	現金 2,457円
●佐藤きち子造血細胞移植患者支援基金	株式会社 クスリのアオキ	あんがいおまる一座
沖縄県骨髄バンクを支援する会	現金 980,026円	現金 3,701円
現金 2,740,745円	株式会社 マルト商事	株式会社カンセキ西川田店
春待ちコンサート(北海道)	現金 41,004円	現金 2,911円
現金 130,000円	株式会社 ナルックス	●つながる募金
東京港南マリンロータリークラブ	現金 25,481円	現金 15,200円
現金 40,772円	株式会社 フクヤ	●キモチと。
岩城 汀子 現金 30,000円	現金 3,457円	現金 23,422円
日根 和美 現金 15,000円	株式会社 北越ケーズ	●マンスリーサポート
本田 真奈美 現金 5,000円	現金 276,281円	現金 42,000円
	磯屋食堂 現金 13,480円	

### 活動資金の支援をお願いします

銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 郵便振替口座 00150-4-15754  
普通 5666655

口座名: 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会  
郵便振替口座の振込用紙を郵送いたします。当協議会までご請求ください。